



# 楠の葉新聞

【先駆者の言葉の雫】

「下ばかり見ていたら  
絶対に虹は見えない」

喜劇王チャップリン

## 問題ととらえることが問題

日本国憲法25条①「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」最近、テレビドラマのタイトルにもなった憲法の条文なので、聞き覚えのある方もいるのではないのでしょうか。中3の公民の学習ではこの条文を使って生存権や社会保障制度についての学習を行っています。実はこの25条には②の項目があることはご存知ですか？「国は、すべての生活部面(ぶめん)について、社会福祉、社会保障、及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」つまり2項は社会保障制度の充実を国の努力事項として憲法に明記しています。生きるための保障は国がすべて面倒を見られるのか。実はそうではない、むしろ自分の人生は自分で保障していかなければならない。そんな社会になってきたようです。その最大の課題が「少子化高齢化」でしょう。よく「少子高齢化」と表記されますが、正確には「少子化」「高齢化」です。「少子化」、子どもが少なくなっていることは、明らかに問題でしょう。これからの社会の担

手が減っているということですから。では、「高齢化」は何が問題なのでしょう？このテーマでの授業中によく生徒から質問されます。「おじいちゃんか？」「問題の本質を突いた鋭い意見だと思いませんか？大人は決して口にしません。分かっているふりをして通り過ぎます。子どもは付度がありませんのでストレートに口にします。私は大人の代表としてこの鋭い質問と対峙しなければいけません。みんな必ず高齢者になる時が来ます。当事者になったときにはじめてその答えを探していたのでは遅すぎます。私は次のように答えます。高齢者が安心して暮らせる社会にすることが課題です。その実現が難しいのです。10年ほど前にこの学習を受けた生徒は財源が足りないことに注目して新しい税制度を提案しました。「長生き税」80歳以上の高齢者には納税の義務を課すというものでした。理由を聞くと「うちのじいちゃん元気で働けるし、お金も持っている」やはり子どもはすごいです。「この提案は授業参観をしてきた教師らの猛反対により廃案となりました。しかし現在、定年退職年齢の引き上げや延長が現実的になってきています。10年先を見据えた画

期的な提案だったと今さらながら感心しています。大人には決して口にできません。やはり時代を作るのは子どもです。その子どもが減っているのはやはり大きな問題です。

### 岡富中校区の

状況を知りたくていろいろな資料を調べていたら岡富中校区の高齢化率を見つけました。

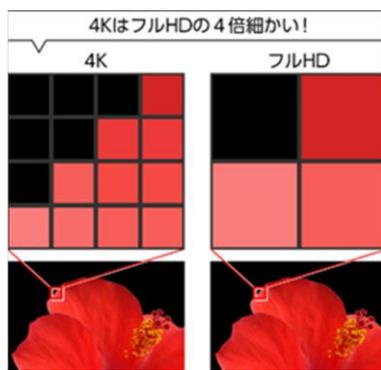


校区平均36%です。全国平均は27%、県は31%、市は33%、本校区はいずれの平均も大きく上回っています。高齢化社会に私たちはどのように向かい合っていくべきなのか。付度なしに考える時期が来ているのではないのでしょうか。

## 4K00k時代

最近、「この文字をやたらと目にします。新しいアイドルグループ？いえいえ少し前3kという言葉が流行りました。やりたくない職業「きつい・きけん・きたない」本当に情けない言葉です。日本が心配です。さらに1kいや5k増えたのか？もはやできる仕事はないのでは？いえいえその話でもありません。そろそろ本題に、「ご存知のことと思います

テレビに関することです。4Kテレビ、8Kテレビ。「いよいよ4k放送開始」などとCMが流れています。4は何かの数字だと思えます。ではkは？性分なのでわからなければ調べる。なるほど！そうだったのか！kとは「キロ」つまり1000のこと。4kだから4000。何が4000？現在のテレビはフルハイビジョンで2000水平画素数つまり2k。



今、この4倍鮮明できれいなテレビ画面になるといって。では8kは...4kの4倍つまり今の16倍鮮明できれいなテレビ画面になる。今の16倍の鮮明できれいな画面...ひょっとして顔の小じわどころか心の中まで映る？大変なことになるのでは。



チャーリーチャップリン  
イギリス出身  
1889-1977